

「大学生を対象とした農業体験と意見交換会」開催概要

中国四国農政局広島地域センター

日 時：平成23年10月16日(日)9:00～14:00

場 所：東広島市西条町下三永（末釜 健太郎 様宅及び圃場）

参加者：14名（広島大学生8名（広島大学農業理解推進団体「じゃけん!農(know)」のメンバー4名と一般参加大学生4名）、農家2名、中国新聞社記者1名、広島地域センター3名）

概 要

- 1 あいさつ：広島地域センター 小林総括管理官
- 2 農作業及び料理体験
 - ・作業内容（指導：末釜 健太郎 様）
 - ①「サツマイモ」の収穫体験（鍬による芋掘り作業）
 - ②稲刈り体験（コンバインによる収穫作業）
 - ③料理体験（収穫したサツマイモ料理など）

「サツマイモ」の収穫体験



末釜様の畑でサツマイモの収穫を体験しました

稲刈り体験



末釜様の指導を受けて自分達の植えた稲をコンバインで刈り取りました

料理体験



留学生の方も参加しました

当日収穫した野菜などを使って調理し食べました

3 意見交換会（４５分）

テーマ：「地域の未来を拓く食と農」

コーディネーター（小林総括管理官）

次のテーマについて小林総括管理官から説明しながら、参加者全員で意見交換を行った。

I 食と農の現状

- ①食と農の物理的・心理的距離の拡大
- ②食料自給率の低下
- ③食の外部化の進展
- ④食の安全

II 子どもたちを育む食と農

- ①食育基本法
- ②自然体験・生活体験の場の提供
- ③食農教育
- ④家庭での教育（家庭教育）

III 食と農を通して地域の未来を拓く「地産地消運動」

- ①食の安全・安心
- ②食文化の伝承
- ③食料自給率の向上



意見交換会で出た主な意見

- ・ 普段買い物をするだけでは生産者の姿が想像できない。農業体験することにより想像できるようになる。（大学生）
- ・ 母国マレーシアでは学校での農作業体験はない。（留学生）
- ・ 東北で原発事故があったが、広島では風評被害を感じることはない。（学生）
- ・ 農業サークルに入ったきっかけは、ドイツ留学に行き、エコファーマーを見て農業に関心を持った。（大学生）

- ・ 学生を受け入れたきっかけは最初はJ Aからの紹介だったが、学生と話すのが楽しいし、労力も助かるので今は自主的に受け入れている。
また、農業は汚くないことや、苦勞を知ってもらいたい。(農家)
- ・ もったいないが、規格外の大きなサツマイモは流通できないので、すべて処分している。(農家)
- ・ 今まで思いつかなかった発想を学生から教えてもらうこともある。例えば野菜の苗植えは穴に苗入れて土で固めるのが当たり前だと思っていたが、穴に苗を放り込んだまま、土をかけない学生がいた。そのまま見ていたが、正常に育つことがわかった。(農家)
- ・ 私自身学生を受け入れるのは苦ではないが、現実には受け入れる農家、特に野菜農家は少ないと思う。高齢化が進んで受け入れる体力がないし、受け入れ自体、抵抗のある農家は多いと思う。(農家)
- ・ 私は農大出身で学生時代、いろいろな農家に行って農業体験をした。現場の体験は教科書や指導員から聞く話とは全く違う、自分で感じるものがあつた。学生達も同じ思いがあると思う。(農家)
- ・ 子育てをする中、小学校・保育所が農業や食育を指導している取り組みを学生に教えることができる。また、自分自身が家庭をもち、子供を持つことによって少しずつ変わっていった部分を学生に話すいい機会だと思う。(農家)
- ・ 1日3食すべてを幼稚園に任せている親がいるという話があつたが、確かに自分の子供の通っている保育園は、朝食をあめ玉1個で済ます親がいる。昼まで持たないので保育園でおにぎりを与えることになるが、この子だけ特別扱いはできないので、親に朝食を与えるようお願いしている現状がある。(農家)
- ・ じゃけん!農(know)は昨年出来たサークルである。名前は広島弁の「じゃけん」と「農」と知る「know」を掛け合わせたものである。とても評判が良かったのでこれに決めた。農業体験を始めたのは今年春からである。(大学生)
- ・ 農業体験は1回ではだめだと思う。回数を重ねるのが大事だと思う。(大学生)
- ・ 生産から販売まで体験したい。東広島で採れた野菜を大学内で販売できたらいいと思う。(大学生)

小林総括管理官から一言

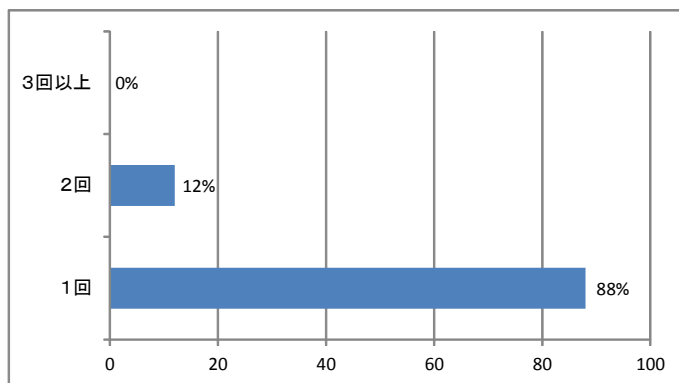
本日は末釜さんにはこういった機会を提供いただきありがとうございました。私どもは、大学生の方と意見交換するといったことがあまりありませんので、じゃけん!農(know)の皆さんとお話が出来たことは、大変意義のあることと思っております。

学生の皆さんが食と農に真剣に向き合っていってほしいことが良くわかりました。

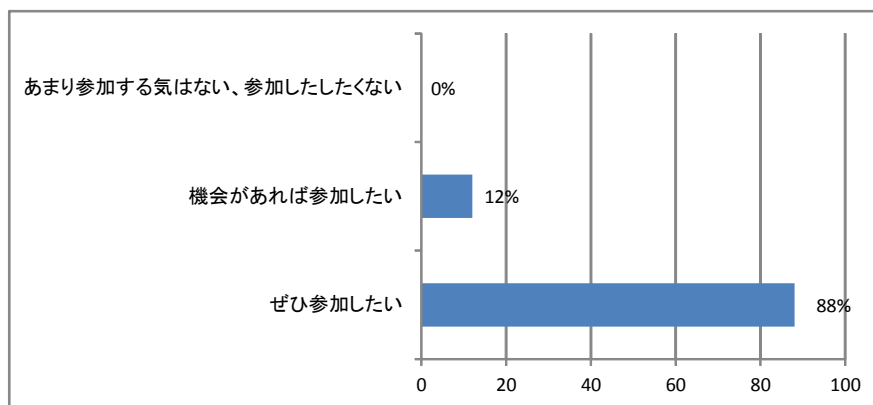
私どももご協力をいたしますので、是非こういった取組を続けていただき、農業から食卓まで関心を深めていただければと思います。

4 アンケート結果

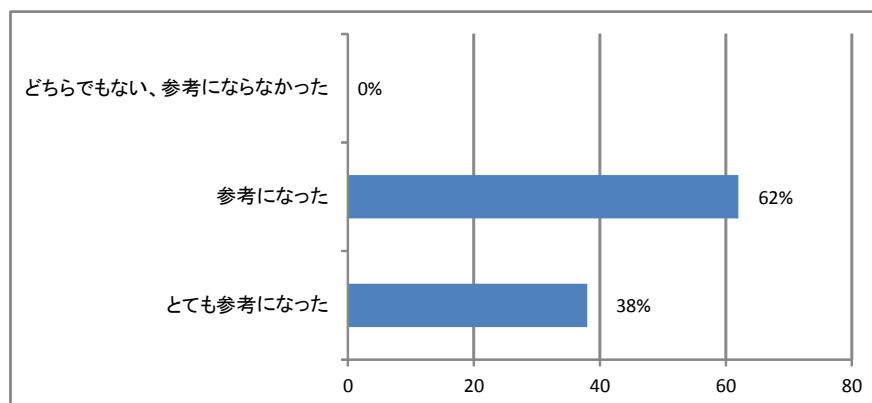
問 1. 稲刈り体験は今度で何度目ですか。



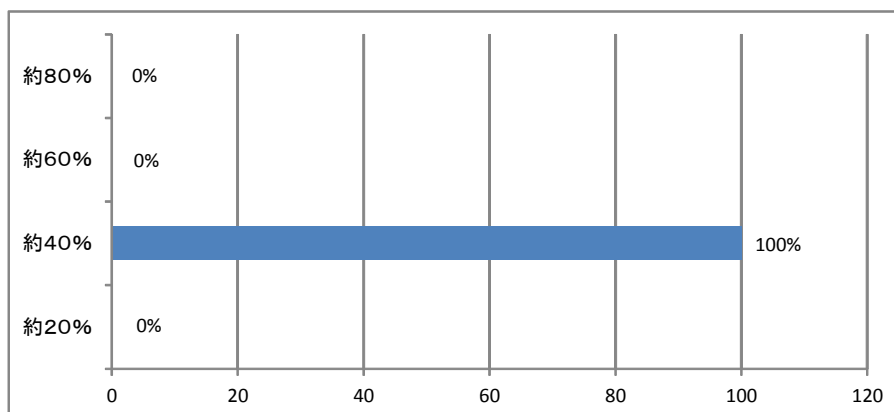
問 2. 今後、このような農林漁業体験活動に参加したいですか。



問 3. 今回の意見交換は参考になりましたか



問 4. 今の日本の食料自給率はカロリーベースで何%だと思いますか。



意見・要望欄

- ・ 初体験なので、いろいろ勉強になりました。次回もぜひ参加したいと思います。
- ・ これからも農業について考えて行動していけるような取り組みをしていきたいと思います。いろいろ教えていただきありがとうございました。
- ・ 農政局さんの食育活動を初めて知りました。これからも体験活動を通していろいろ知ってみたいです。
- ・ 専門家の方から大学や学校での講義をしてもらいたい。
- ・ もっといろいろな人が体験できれば、食に対する考え方が変わると思うのでよいと思う。
- ・ 今回、自分で収穫したものをその場で食べてみて、新鮮でとてもおいしく感じた。農家の人の苦労や喜びを感じることで農業に関心を持てた。また、食べることで農業と食のつながりを実感できた。